

一般質問



尾野 議員

○介護保険事業について

【質】最近、市民皆様から「介護保険つてどがん制度や」、「仕組みもよくわからん」などの話や質問を受けるが、実に複雑で非常にわかりにくい制度である。多くの人に分かりやすく説明をして頂きたい。

【答】この制度は、介護が必要になった方とご家族を社会全体で支えていくもので、主に在宅サービスと施設サービスからなります。

【質】現在の本市の高齢化率と10年後の推計率はどうなっているか。

【答】27年3月末現在で32パーセント、10年後は39パーセントになると推計しています。

【質】要介護と要支援の違いは何か。

【答】要介護者とは、介護サービスによって生活機能の維持を図ることが必要な人をいいます。要支援者とは、介護により生活機能を改善する可能性が高い人をいいます。

【質】現在の認定者数と10年後の見込み数はどうなっているか。

【答】26年末現在、要支援者と要介護者を合わせて1千600人です。37年度の認定者数は、1千850人と見込んでいます。

【質】市内の入所及び入居施設数と種類はどうなっているか。必要とされる施設数は確保できているのか。

【答】特別養護老人ホームが4施設、介護老人保健施設が1施設、介護療養型医療施設が4施設あります。その他認知症対応型共同生活介護を行うグループホームが9か所あり、必要数は確保できると予測します。

【質】介護給付費と保険料の推移はどうか。

【答】給付費は、平成18年度が20億9千500万円、22年度が22億5千400万円、26年度が24億3千800万円です。保険料は、平成18年度から月額4千750円、24年度から5千360円、27年度からは5千520円です。

【質】負担と給付のバランスをとるためには、介護予防の取り組みが重要と思われる。現在までの状況と今後の対応はどのような考えか。

【答】市の包括支援センターにおいて各予防事業を行っており、今後、民間主体のものと市主体のものを組み合わせながら対応してまいります。

○市道志佐川河畔公園線及び浦川河川上流に係わる問題等について

【質】高野橋の上下流に繁茂する暖竹を早急に伐採できないか。

【答】渇水期の伐採を考えます。

【質】コスモス播種を復活してほしいとの声がある。実施の考えはないか。

【答】実施の方向で検討いたします。

一般質問



川下 議員

○胃がんリスク検診の導入について

【質】胃がんリスク検診の導入については昨年の9月定例会において提案したが、実施については難しいとの答弁だったと認識している。この件についてその後の取り組みや検討の経過についてお伺いしたい。

【答】県下の市町が委託している事業者においてピロリ菌検査及びリスク検査を実施することとなりましたので、28年度からの集団検診での実施に向けて取り組んでおります。

【質】松浦市内における胃がんによる死亡数をお示し頂きたい。

【答】22年度に10人の方が、23年度に8人の方が、24年度に14人の方が亡くなっております。

【質】胃がんは予防できる病気であると聞いている。胃がんで苦しむ人や亡くなる方をひとりでも少なくしたい。それを可能にするのが胃がんリスク検診の導入であり、機は熟していると考えます。市長の考えを伺いたい。

【答】ピロリ菌リスク検査に関しては、その導入に際し、検査後のがん検診や精密検査等にどのようにつなげていくのかなどといった課題もありません。

す。実施にあたっては、市民の皆様十分に説明を行い、理解を頂きながら進めてまいります。

○松浦市のPRについて

【質】市のPR活動について、松浦市ではどのように行われているか現状をお聞きしたい。

【答】現在の取り組みとしては、市のホームページと市報による広報、関係部署が開設しているフェイスブックやツイッター、また、福岡都市圏に開設したアンテナショップとシテイプロモーション事業があります。

【質】松浦市は、観光資源にしても名産名物だけでなく、子育て支援制度のようにも自治体にも負けない制度もあり、松浦市は良いPR資源を持っている。しかし、全国の自治体とPR合戦に勝たなければ松浦市は気づいてもらえない。そこで地域おこし協力隊制度を活用したPR専門のチームを結成し、全国へむけたアピールの必要性を感じるがいかがか。

【答】本市のPRの実態から申せば、内容が固く情報量も少なく広く伝わっていないというのが実情ではないかと認識しております。その解決としては、ご提案がありました専門のチームをつくるどうか全庁的に各課に情報担当を配置し、優れた情報を管理発信するなどの取り組みも必要かと思えます。